

令和4年度 嘉麻市立牛隈小学校 学力向上プラン (R4.3.3)

■視点1-②

《中期目標》問題に気づき、解決策を考え、伝え合う児童の育成

〈成果指標〉令和7年度の全国学力学習状況調査の標準化得点:国語102以上・算数102以上

《短期目標》学びの基礎・基本を身につけた児童の育成

〈成果指標〉令和4年度の全国学力学習状況調査の標準化得点:国語98算数98以上

(令和5年度福岡県学力調査【中1】において、県標準化得点 国語100 数学100 以上)

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組(指標)〉

③家庭学習強化週間の実施(毎学期)(学級通信等で家庭に協力を依頼・連携)

〈成果(指標)〉

◆「10分×学年+10分」以上の学年目標家庭学習時間に取り組む児童の割合(85%以上)

■視点2

【授業づくり】

[主体的な学習を目指す授業改善]

〈取組(指標)〉

⑤1単位時間の中に、「学びの良さを自覚する」振り返りを取り入れた授業(週案に本時の主眼を記入)

〈成果(指標)〉

◆児童による授業評価(「毎時間の授業の最後に何を学んだかわかる」3.5以上:4段階評定尺度)

◆授業チェックリスト(「自己の学びの変容を自覚させる工夫」3.5以上:4段階評定尺度)

[書く力・交流する力の育成]

〈取組(指標)〉

②1単位時間の中に「考えるための技法」を活用した書く・交流する活動を設定する。(週案に「考えるための技法」を明記)

〈成果(指標)〉

◆児童による授業評価アンケート(「ペアや班で自分の考えを説明したり、考えを比較したりして自分の考えをよりよいものにできたか」3.5以上:4段階評定尺度)

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組(指標)〉

④学力調査等に係る職員研修を実施する。(年間3回)

④「考えるための技法」を活用した書く力・交流する力の育成をねらいとした授業を全学級で公開する。(全員、年1回以上)

⑥小中合同の研修会の実施(年3回)

〈成果(指標)〉

◆全学級の研究授業の実施と指導主事を招聘し、指導助言を受ける。(各学年1回以上)

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉①四分位層に応じた習熟度別での補充学習(単元末・プレテスト(補充)→評価テスト)

②年間40冊以上の読書(毎日10分間の朝読書・週末家庭読書)

③自分たちで目標を決め、取り組み、達成感を味わう活動の設定(年間3回以上)

〈成果(指標)〉◆算数単元テスト(重点単元 期待点以上85%)

◆年間読書量(40冊以上 90%以上)

◆キャリアノート「最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」(当てはまる:85%)

■視点1-①

全国学力・学習状況調査、県学力調査及び児童生徒による授業評価等から見た「課題」

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

全国(県)調査標準化得点	国語		算数		四分位層の県との差	国語				算数				
	R3	R4	R3	R4		A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層	
94			94			R3	-14.4	-4.4	+3.0	+15.9	-9.4	-5.2	-7.4	+21.8
						R4								

課題
 ・国語「書くこと」に課題R3 ・算数「図形」に課題R3
 ・学力中低位層の割合は、国語・算数割合が全国に比べ高い
 ・県学調の結果(R1(117.6)→R3(83.0))、国語・算数ともに下降傾向

質問紙調査等
 ・課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいましたか。(全国比-18.8)
 ・児童による授業評価アンケート「授業の終わり方で自分なりに振り返ることができた。」(評定3.63:4段階評定尺度)
 ・授業チェックリスト「自己の学びの変容を自覚させる工夫がなされている」(評定2.72:4段階評定尺度)

①基礎基本が定着していない児童に対する補足的な指導が不十分
 ②自分の考えやその理由をまとめる「書く力」が不十分
 ③家庭学習が習慣化していない(家庭学習時間達成率80%)。
 ④本校実態の共通理解の必要性
 ⑤児童が自身の学びを自覚し、次時に向けて意欲をもつことができる授業づくりが不十分。
 ⑥9か年を見通した学力向上の取組の必要性